

# 森と私たちの暮らし

一般社団法人 東京都森林協会  
発行人 東京都森林協会会長 小澤 順一郎  
〒190-0181  
東京都西多摩郡日の出町大久野7852  
☎042-597-2881

No.13  
2024年8月



日の出町大久野地区で稼働するタワヤーダ

写真の林業機械は森林循環事業主伐事業で活躍する「タワヤーダ」（写真左）と高性能搬器（写真下）

オーストリアのコントラート社製です。元柱となるタワーとタワーの先端から主索を張り出し、主索につけた高性能搬器で伐採木を吊り上げて集材します。作業索を内部に収納する構造で人と機械との接触を減らした安全設計となっています。公益財団法人東京都農林水産振興財団から主伐事業参加林業経営体に貸し出されております。



細記事)

令和6年度事業計画遂行に当たり、厳しい経営環境の中、組織基盤の安定を図ることが重要との判断より理事の補選が実施され令和6年度の事業がスタートしました。

事業計画の柱となる「多摩産材認証制度」の運営につきましては愛称マーク制定3年目となり多く都民・利用者への普及拡大を図る施策を実施していくことになりました。

今年度からの役員体制は次のとおりです

代表理事会長 小澤 順一郎  
(日本林業経営者協会多摩会 会長)

理事副会長 木村 康雄  
(東京都森林組合代表理事組合長)

理事 三谷 清  
(学識経験者)

監事 吉岡 拓如  
(多摩産材認証協議会会長・東京大学准教授)

## 第7回定時社員総会開催

一般社団法人東京都森林協会は令和6年度定時社員総会を7月8日に開催しました。

森林を取り巻く情勢が厳しい中ではありますが令和5年度事業もほぼ計画どおり達成されるとともに、3年越しとなる「林業・木材講演会」も当協会は後援と運営に当たり、多くの林業関係者の参加で盛会裏に開催された旨を報告した。(4頁に詳

# 東京都森林協会会長 就任挨拶



一般社団法人東京都森林協会

代表理事会長  
小澤 順一郎

この度、一般社団法人東京都森林協会の会長に就任しましたので、ご挨拶申し上げます。

森は、人類誕生以来、現在まで、人々の生存に必要な環境と資源を供給してきました。一方、過去を振り返れば、世界四大文明が滅びたのは、過剰な収奪により、都市を支えてきた周辺の森そのものを破壊してしまったことが大きな要因だったと言われます。これからも、人々が健康に、豊かに生活するためには、健全な森と共存していくことが、とても大切なのだと思います。

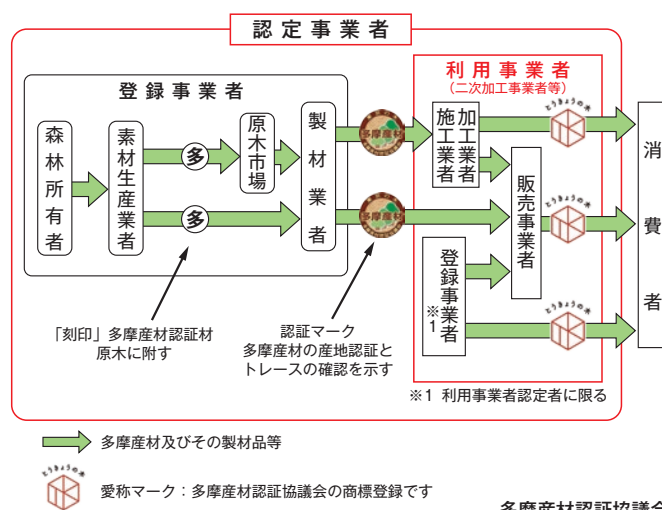
幸い、日本は、世界屈指の森林率を誇る、緑豊かな国土を持つ国であり、首都東京にも、これだけの大都会としては珍しく、都域の約4割、8万ヘクタールの森が残っています。その内、約3万ヘクタールは、先人が植え育ててきたスギやヒノキの人工林です。



多摩木材センター協同組合にて

基本的に経済林として管理されてきた地域の森林を健全に育成していくためには、地域材への安定した需要を創り出し、森林資源の循環を促進することが非常に重要です。多摩地域では、平成18年（2006年）から森林所有者や木材産業関係者が協力して「多摩産材認証協議会」を立ち上げ、産地の明確な認証木材を供給することにより、多摩産材の需要拡大に取り組み、一定の成果を上げてきました。

## 多摩産材認証制度の概念図



多摩産材認証協議会  
令和5年4月1日

この多摩産材認証協議会を支えることを主目的とし、併せて地域の林業関係団体を取りまとめ、東京の森林・林業の発展を図るために設立されたのが、現在の東京都森林協会ですが、当協会の取り組みをより一層進めるため、今年度の総会から、私を会長とする新たな体制で取り組むこととなりました。副会長職は、従来からお務め戴いている東京都森林組合の木村組合長に、監事は多摩産材認証協議会会長である東京大学准教授の吉岡先生に引き続きお願い致します。また、三谷前会長には、東京都との連絡調整役として、理事でお残り戴くこととなりました。

多摩の山々、そして東京都全体の森林が、自然豊かで多様な環境を維持しながら、継続的に優良材が生産できるよう、協会一団となって取り組んでまいります。林業関係者皆様の深いご理解とご指導を当協会に賜りますよう、何卒宜しくお願い致します。

## 福田珠子さん 「内閣総理大臣賞」 受賞

### 令和6年度緑化推進運動功労者表彰

東京都林業研究グループ連絡協議会前会長の福田珠子さんは、令和6年4月26日内閣府が主催する第18回「みどりの式典」にて、緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰を受けられました。

緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰とは、「緑化活動の推進」「緑化思想の普及啓発」に顕著な功績があった個人、団体を称える目的で、緑化推進連絡会議（議長は農林水産大臣）が昭和59年度から毎年実施しています。



受賞後の記念撮影・写真提供 内閣府

受賞された福田珠子さんは、青梅市二俣尾地区に在住し、平成10年から夫の稼業である林業を継ぎ林業経営に取り組んでこられた。

女性林業家で設立した「エンジョイ・フォレスト女性林研」のリーダーとして自然の材料を活用した草木染体験講座を毎年開催し、一般都民の森林への関心を高める活動を展開された。

武蔵野市との協定により所有する森林を「二俣尾・武蔵野市民の森」とし、市が主催する「森の市民講座」での指導を通じて都市住民の緑化活動の普及啓発に積極的に取り組んでいる。

福田さんの森林環境教育推進活動が高く評価され受賞されました。

## 林業関係組織総会開催!!

### 東京都林業研究グループ連絡協議会

第57回目の通常総会を東京都檜原村の「檜原都民の森」にて、来賓の檜原村吉本村長はじめ、会員6団体の代表者、総勢50名の参加で開催されました。

檜原やまびこ会井上会長の議事進行により、令和5年度の事業報告を行い、令和6年度の事業計画が承認となりました。



コロナ禍で自粛されていた木育活動も各会員団体が積極的に開催し、森林への理解と木材の大切さを伝える取り組み、次世代の森林整備を担う高校生を対象としたインターンシップ活動も実施して、様々な世代への理解促進を継続することが報告されました。

### 東京都林業改良普及協会

### 日本林業経営者協会 多摩会

東京都林業改良普及協会と日本林業経営者協会多摩会は、7月9日に青梅合同庁舎会議室にて通常総会を開催しました。

両組織ともに、会員の高齢化・会員減少の課題を抱える中、同一日の開催方式を採用することで、総会参加者が増加となりました。

両組織ともに、提案した議案が満場一致で承認となり、盛会裏に閉会となりました。

## 林業・木材講演会開催

日本林業経営者協会多摩会と東京都林業改良普及協会は傘下の会員や林業関係者を対象とする林業・木材講演会を令和6年1月16日に多摩木材センター協同組合会議室にて開催した。

「林材ライター」として様々な業界紙に寄稿されている赤堀楠雄先生を講師に招き、「答えは山にある～良い山づくりを目指す」をテーマとする講演会となりました。



1月の開催で森林整備の繁忙期と重なり林業事業体の参加者が少ない中であつたが、主催者の会員はじめ森林組合役職員、製材業者、行政職員等50名以上の参加を数えた。

講演テーマの「答えは山にある～良い山づくりを目指す」のとおり、全国の現場を歩き、各地域に根差した取組み、地域の生活と共に成り立つ林業等、赤堀先生の講話が東京林業に新たな活路を見出す手がかりになることを期待したい。



熱心に受講する参加者

国産材へのシフト・脱炭素社会へ向けて森林が担う役割の重要性が森林・木材への追い風ではあるが、「川上」と「川下」を繋ぐ製材工場が全国で約4千件となり、この20年で半数以下となっている。

国内人口の減少が始まり、人材育成や板材、小割材が求められる将来に対して、「川上」「川中」「川下」それぞれの従事者が持続可能な「林業・木材」産業を目指して取り組むことを意識する講演会となった。

## 環境月間への取組み開始!!

多摩産材認証協議会では、昨年に引き続き6月2日、第22回ふっさ環境フェスティバルの会場の多摩川中央公園で森林環境の重要性を掲げて、多摩産材認証制度の説明を実施した。



同フェスティバル参加団体である「明治大学校友会東京都多摩支部福生地域支部」は東京都が掲げる「花粉の少ない森づくり運動」の募金を実施し、募金者に多摩産材製品の粗品の配付も行い、花粉削減への取組みへの周知を図った。

当日の募金は6月14日に募金活動を主管する公益財団法人東京都農林水産振興財団花粉対策室を訪問し、活動で託された募金を花粉の少ない森づくり運動担当高木課長に手渡し、当日の活動報告を行った。

高木課長より、募金活動へのお礼と今後の森林整備活動への理解と協力要請がなされた。

# とうきょう森づくり 貢献認証制度



## 第21～22回審査委員会開催!!

新型コロナウイルス感染症が分類変更となった昨年度はとうきょう森づくり貢献認証制度審査委員会も集合審査方式となり、第21回及び第22回審査委員会が開催された。

昨年度の申請の特徴は、地球温暖化が進行する中二酸化炭素の吸収量を評価する「森林整備サポート認定」が8件、多摩産材認証制度の「とうきょうの木」愛称マーク制定により、多摩産材製品への注目が高まり「多摩産材製品による二酸化炭素固定量認証」の申請が25件となった。地球環境への意識向上が当制度の申請に結び付く結果となりました。

「建築物等による二酸化炭素固定量認証」においては都心の高層新築建築物にも「多摩産材」を多用した申請案件が増加傾向であり、「木の温もり」が人々の心の渇きを癒す建築物への関心が高くなる傾向です。

## 第21回審査会の認定・認証者の皆様

### ■森林整備サポート認定

◎株式会社植松土木 様

あきる野市の養沢溪谷に面した森林が間伐され、二酸化炭素吸収量の増加、洪水等の災害からの安全性も向上しました。

◎特定非営利活動法人グリーンアークの森 様

青梅市内の1.43haに花粉の少ないスギ・ヒノキが4,290本植栽され、二酸化炭素吸収量162.90t-CO<sub>2</sub>が認定されました。

### ■多摩産材製品による二酸化炭素固定量認証

◎株式会社風憩セコロ 様

多摩産材転落防止柵 6種

多摩産材横断防止柵 8種

多摩産材フットライト 6種

多摩産材ロングベンチ 2種

埼玉県に本社を置く同社は地域で生まれた木材の魅力を活かした製品がCO<sub>2</sub>固定量の増加に寄与することから、多摩産材の活用に着目し転落防止柵等で認証となりました。

◎港製器工業株式会社 様

多摩産材スーパーフェンスβ 2種

同社住設事業部門で多摩産材スギを取り入れ開発した本格塀のスーパーフェンスβは高さ3mまで可能です。

◎株式会社東京・森と市庭 様

多摩産材木馬 1種

多様な木材製品を提案する同社による多摩産材の子供向け遊具です。

### ■建築物等による二酸化炭素固定量認証

◎野村不動産株式会社 (建築主) 様

◎株式会社熊谷組 (事業主) 様

芝公園エリアに新設された13階建「H'0芝公園」は木造ハイブリッド構造で内装仕上げ材に多摩産材を使用し、二酸化炭素固定量13.54 t-CO<sub>2</sub>が認証されました。

## 第22回審査会の認定者の皆様

第22回審査委員会は森林整備サポート認定6件、多様な取組が審査対象となりました。

### ■森林整備サポート認定

◎株式会社不動テトラ東京本店 様

日の出町の森林0.22haの整備

同社は継続的な森林整備が重要との認識から令和6年度も所有者の了解を得て、継続し森林整備を予定しております。

◎株式会社ナガサワ 様

青梅市小曾木地区の森林0.25haの整備

同社は本社事務所の隣に山林を所有することから、青梅の森林整備に積極的に貢献することが重要と認識し、取組みを開始しました。

## ◎リコーリース株式会社 様

日の出町大久野地区の森林0.60haに植栽されたスギ・ヒノキ1,800本の下刈りによる二酸化炭素吸収量64.35t-CO<sub>2</sub>が認定されました。

## ◎株式会社東栄住宅 様

青梅市富岡地区の森林0.30haに植栽されたスギ・ヒノキ900本の下刈りによる二酸化炭素吸収量34.83t-CO<sub>2</sub>が認定されました。

## ◎中央区 様

中央区は平成20年より檜原村の特定非営利活動法人と協定書を締結し、森林保全活動に取り組んでいます。今回は森林面積3.19haのスギ・ヒノキ間伐により二酸化炭素吸収量90.78 t-CO<sub>2</sub>が認定されました。

## ◎杉並区 様

杉並区は森林環境譲与税を活用し、温暖化対策に寄与する目的で森林整備に関する協定書を青梅市と締結しました。

青梅市内の森林ヒノキ2.0haの間伐を行い、二酸化炭素吸収量66.18 t-CO<sub>2</sub>が認定されました。令和6年度も継続的取組事業として予定されています。

## 第21回認証書授与式開催

昨年10月19日、都庁特別会議室にて第21回審査会において認定・認証された申請者に対して、授与式が開催されました。

授与式では築田農林水産部長より(株)植松土木様、特定非営利活動法人グリーンアークの森様、(株)風



授与式後の集合写真

憩セコロ様、港製器工業(株)様、(株)東京・森と市庭様、野村不動産(株)様、(株)熊谷組様に認定書・認証書が授与されました。

## 第22回認証書授与式開催

2月20日、都庁特別会議室にて第22回審査会において認定・認証された申請者に対して、授与式が開催されました。

認定書が授与された皆様は(株)不動テトラ東京本店様、(株)ナガサワ様、リコーリース(株)様、(株)東栄住宅様、中央区様、杉並区様です。



授与式後の集合写真

国民一人一人が森を支える  
森林環境税が始まります

国民の皆様から納税いただいた「森林環境税」は国を通じて「森林環境譲与税」として全国全ての市町村と都道府県に配分され、森林管理制度を始めとする森林整備やその促進のための取組みに活用されます。(林野庁パンフレットより抜粋)

東京都及び区市町村では、森林環境譲与税を「森林整備」「人材育成」「木材利用」「普及啓発の取組み」等様々な分野で検討・活用されております。

森林所有者はじめ関係者の皆様には「森林を整備し、森林を守る」取り組みが多く都民の皆様理解いただくようご支援・ご協力をお願いいたします。